



青森県立さわらび療育福祉センター 所長 齋藤 桂一

皆様には平素から当センターの運営に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年4月の着任から、早いものでもうすぐ1年が経とうとしています。私は、県の規定により今年3月末で役職定年となりますので、さわらびの所長は今年度末で退任します。このことは、職員はじめ関係者には着任当初にお伝えしています。在任期間は1年限りでも、利用者のために、さわらびのために、地域の福祉のためにより良い福祉サービスを提供し、変えていかなければならない課題はこの1年で改善したい、そんな思いをもって職務に取り組んできました。コロナ禍でこれまで休止していた施設の行事を5年ぶりに復活・再開したり、利用者意見も踏まえ入所・通所サービスを見直したり、小さいことばかりの積み重ねでしたが、私の好きな言葉である「積小為大」の精神で少しは改善できた、前よりも良くなったものと思っています。これもひとえに職員はもとより関係者皆様の御支援、御協力があったのであり、本当に心から感謝しています。

当センターさわらびは、建設から54年が経過した建物・設備の老朽化をはじめ、必要な専門スタッフの確保、近年増加傾向にある医療的ケア児への対応など、とても今年度1年では解決できない、しかし、できるだけ早期解決が必要などとても大きな課題を抱えています。こうしたさわらびの課題については、現在県障がい福祉課が「青森県立療育福祉センター運営あり方検討会」を設置し、あすなろ療育福祉センターの課題と共に、今後の対応を検討しています。今後さわらびが“あおもり新時代”に合わせてどういう方向に進んでいくのか、この検討会はぜひ皆様にも注目してほしいと思います。

立春が過ぎ、退任の日まで残り一月半となりましたが、振り返ってみれば、驚きの異動内示の日からあっという間に月日が過ぎたように思います。私にとってこの1年は、障がい福祉のみならず広く社会福祉を学ぶ機会となり、とても貴重な経験となっています。さわらびにとっては、次のステージに向かっていくための下準備となる一年だったのかもしれませんが。

いずれにせよ、さわらびの現場では、職員一同、安全・安心を第一とし、チームワークを発揮して、日々充実した施設運営に努めていますので、引き続き皆様には温かい御支援と御協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様の御健勝とさわらびの益々の発展を祈念いたします。